

長畝ふるさと通信



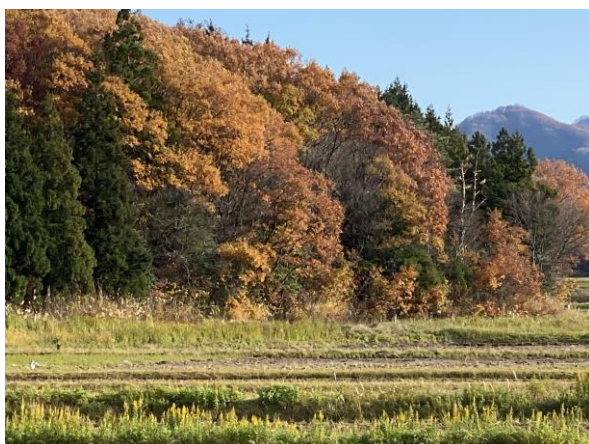
【2024年11月号】

■ 小さい秋すら見つけられないほど



コメの収穫を終えて約一か月、稲刈りを終えた田んぼの耕耘やら最後の畔草刈りやらお天気の合間を縫って作業を進めています。20日には金北山に初冠雪、一気に冬を迎えた感じです。地球温暖化でこの先、春と秋が無くなって長～い夏と冬だけの二季になるんだとか…。日本の四季折々の里山風景を見られなくなるかと思うと、今のうちに子供たちに日本の童謡の素晴らしさを伝

えたいと思うこの頃です。「秋の夕日に照る山モ～ミ～ジ～」が実感できなくなったらきっと寂しい。



里山のもみじも一瞬の紅葉、あっという間に落葉してしまいました。写真の右側の枯れ木にはトキが1羽止まっています。また、左下の田んぼにも数羽のトキたちが餌を食べています(見えますか～)。彼らにとっても厳しい冬を前にエサを食溜めしたいところでしょう

■ 第19回収穫感謝祭

11月30日、第19回目となる収穫感謝祭を開催しました。前日から生憎の雨模様でしたが、大勢の方々が参加してくれました。感謝祭では毎年、講師をお招きして田んぼやトキについての勉強会を行ってきましたが、今年は少し趣向を変えてミニ音楽会を行いました。島内で活躍しているマンドリン奏者の磯野正博さんによる子供からお年寄りまで幅広い層が楽しめる演奏会は好評でした。



コシヒカリ、つきあかり、雪ん子舞の食べ比べでは評価がキレイに3分割に分かれました。普段食べ親しんでいるコシヒカリに評価が集中すると思いきや、あっさりした食味のつきあかりや雪ん子舞が美味しいと感じた若者世代も大勢おり、コシヒカリ至上主義時代は終わったとつくづく感じました。恒例の豚汁や餅つきは相変わらず好評で、外注のオードブルにはさっぱり手が付かないほど。やっぱりこういうのが一番のごちそうなんだよな～。来年の20回記念も盛大にやりますよ。



■ おけさ柿は過去最高の出来栄え、でも・・・

防霜ファンを設置した効果が現われたかどうかは定かではありませんが、おけさ柿は過去最高クラスの収穫量だったそうで、2年連続低迷しているコメ百姓にとっては悔しい限りです。写真は近年改植が進んでいる「ジョイント栽培」です。従来と比べて樹高が低く



作業効率を追求した仕立てとなっており、防霜ファンに次いで将来を想定した対策となっていますが、問題は後継者不足。せっかく条件を整えても実行する人がいなくてはお手上げです。日本の若者たちよ、一緒に農業しましょうよ！四季の歌でも口ずさみながら。